



森ボラ 通信

NPO 法人

第 258 号 2023 年 11 月 20 日発行
北海道森林ボランティア協会

URL <https://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸 1 条 1 丁目 8-8 ラルズ生活研究センター

TEL (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrinv2002@nifty.com

活動報告

◆ 親子森林教室「秋の森の大運動会」

10 月 15 日秋の森の大運動会に参加させていただきました。熊が出たからと延期されていた親子森林教室は、秋の大運動会として、晴天のうちに開催されました。集まった子どもたちと親御さんたちは、3つのチームに分かれ、それぞれのリーダーがじゃんけんをして、どのミッションを先に回るのか、決めました。ミッションは、樹の高さを測る A、木を切る B、土の中を観察 C 樹皮のビンゴ D とあって、それぞれのミッションを回って最高得点の人に、豪華景品が当たります！と、最初に告知がありました。



土の中を観察

私湯浅は、土の中の観察のミッションの担当となりました。ブルーシートの上に一生懸命掘り起こした土を加藤隊長が載せてくれました。この土は育っている途中の樹木の根っこがはりめぐらされていて、掘るのが大変そうでした。最初に載せられた土の中にはミミズが 3 匹入っていました。顔が赤い、身体は紫のものがいました。ミミズはスコップに載せられると、急に動きがくるくと活発になり、その様子に驚きました。その他とても小さな尺取り虫のような虫を見つけて驚いていた子もいました。土の中にそのような虫まで生息しているのには、驚きでした。『空気があるから、土の中でも生きていけるのかしら？』と、お家の人が呟いていて、私も心の中で、うんうんと頷いていました。土の中の観察のミッションが 3 チーム皆終わったので、避難小屋まで歩くことになりました。道すがら、今年は全然ドングリが落ちていないという話になり、熊やリスはお腹がすいて、冬眠できないのでは？という話題になりました。だから、里に多く熊がおいてくるのね、と自分も思いました。とても熊が気の毒な気持ちです。ドングリが多くできる年を表とすると、必ず裏があるのだと聞きました。その年はできない年なのだそうです……。その代わり栗はとても大きな実がなったものもあって、最後にみんなお土産でもらっていました。

結局最高得点の人が帰ってしまっていたので、最後に得点の高かった人がいたチームから欲しい人同士がじゃんけんをして、鹿の角をゲットしていました。綺麗な鹿の角でした。この森の中にも鹿はたくさん出て、駐車場などでは朝いつも出迎えてくれるのだと知りました。鹿が砂浴びした場所も教えてもらいました。歩いていて会ったことはないけれど、いつか会えるのかしら？と思いました。

お昼ごはんを食べてから、大きなノコギリでの木を切る作業と、薪を割る作業、木登りと大人も子どももやる気まんまん、和やかで楽しい時を過ごしました。小学 3 年生ぐらいの女の子が薪を割る時に背骨がしっかりしゃんとしていて、小鎚を大きく振りかぶって、薪を割る姿に驚きました。薪を割るには体幹がしっかりしていなく



薪割り体験

てはならないな、と感じました。聞いてみると、新体操をやっている女の子でした。なるほど、と思いました。日頃の鍛練の成果が出ていたのですね。

暖かい木漏れ日の中、秋の大運動会は終わりました。親子の人たちが帰った後、森のボランティアのみなさんが簡易トイレのテントの畳み方を試行錯誤されていました。みなさん、しっかり後片付けを行っていて、このような努力で成り立っている行事だとしみじみ感じました。ありがとうございました。（文・湯浅）



◆20周年記念研修旅行報告

昨年度に予定されていた森ボラ創立20周年記念研修旅行が、10月30日から3泊4日の行程で南紀地方を参加者15名で訪れたので概要を報告します。

【速水林業 太田賀山林】

三重県南部尾鷲の太田賀山林は面積約1,000haヒノキを中心とする針葉樹林が8割を占め、その他は広葉樹の薪炭林となっている。最近管理受託山林も増え1,700haにもなっている。現地での説明、案内は速水社長自らが行ってくれました。会社の雇用者は14名、平均年齢43歳と働き盛りの陣容です。最初はドリップしたコーヒーをいただきながら会社や森の概要を、移動式小屋を改良した教室で行いました。

従来慣例にとらわれない作業として植栽は500本/日・人、下草刈りは9回から2回、枝うちはしないなど市況を考慮した合理的な判断で進められています。

現地案内では30度を超す急斜面で林冠の開放度を20%以上確保し、下草の繁茂、そして腐植土の堆積から多様な植生維持とつながっていました。作業機械は架線系のタワーヤードと積込むタイヤ式グラブローダーを組み合わせさせて土壌の流失を最小限に抑える作業をしていました。そして、ここでもシカの食害は大きな問題になっていますが、密植を行い柵高1.5~2.0m程のステンレス入り網を植栽地の周囲に回していました。また、最近海上のカキ養殖用筏にヒノキの20~30年生が重宝され、それを育てるために密植した栽培がおこなわれているなど、常に世の動きに敏感に反応し収益の向上に努力していると感じました。

お忙しい中、我々の初心者的な質問に丁寧に説明してくれた速水社長に深甚より感謝いたします。ありがとうございました。

【北海道大学 和歌山研究林】

和歌山県古座川町字平井に位置し、県最南端の串本市から車で約1時間の距離にある。ここは1925(大正14)年に暖帯林の教育・研究のために共有地427haを購入し、1927(昭和2)年に登録有形文化財に指定されている本館が完成している。職員は林長、技術員、地元雇用者を含め12名で運



教室でのレクチャー



現地での案内・説明状況

営管理している。

本館講堂では伊藤技術班長から建物や研究林の概要を丁寧に説明していただき、現地の案内は所有するマイクロバスで同行していただきました。研究林の気候は温暖多雨で、年平均気温は15.4℃、年間降水量は3,600mm程、降雪は年に数回あるが、すぐに融けるとの事です。ちなみに札幌の年平均気温は9.2℃、年間降水量は1,150mmなので降水量の違いが際立っています。現地の地形は30度以上の急傾斜地が大半で、表土が薄く、急な斜面では岩がむき出しの状態でした。

研究林はバスで30分程の入口ゲートを入り、大森山保存林に到着、ヘルメットを借りて、2台の4人乗りモノレールに分乗し、それ以外の人は徒歩で中間地点まで行き、そこから交代して尾根まで行きコウヤマキ保存林を案内して頂きました。途中の勾配は30度を越えるところもあり、スリル満点特に帰りは崖から落ちるような恐怖感さえ覚えました。研究林内はカシ・シイ類、クスノキなどの照葉樹、ヤマザクラ、ミズメ、ホオノキなどの落葉広葉樹、ヒノキ、モミ、スギ、コウヤマキなどの針葉樹が混在し、保存林は北斜面のためか薄暗く下草も生えず岩石が露出している箇所が目立ちました。このような厳しい条件の中で植樹はど



本館講堂での説明状況



保存林内のモノレール



本館前で集合

のようにするのかを聞くと、土壌のある部分に植栽する、と答えられ昔の人は土嚢で土を運搬して石の間の隙間に土を入れて植樹をしたようです。

保存林から戻り木材をふんだんに使った趣のある本館食堂でお弁当をいただき、食後のコーヒーを飲み、本館内部を見学し、集合写真を写して帰路につきました。伊藤さんを始め和歌山研修林の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼致します。

【その他】

研修の合間に短い時間でしたが、伊勢神宮、熊野古道、那智大社そして高野山と私にとって初めての歴史ある名所旧跡を訪ねることが出来ました。また、宿泊先も民宿、ホテル、割烹旅館と趣向を凝らした料理、お酒そして温泉を満喫しました。20周年記念研修旅行を企画、実行してお世話になりました松藤・矢野・丸尾氏そして山口氏のスタッフの方々には感謝します。ありがとうございました。(文・檀樅)

■ 澄川の自然 51

フッキソウ(富貴草・ツゲ科)

今年の夏は暑かったせいか、澄川の山全体雑草類の繁みが少なかった様に思います。特に気になったのは、サラシナショウマ、ヨブスマソウの姿が見えなかった事です。

そんななかで、フッキソウはまもなく降る雪を予告するかの様に、真白い実を付けていました。一面枯葉色の森の中で、フッキソウの落ち着いた深緑色が美しく調和しています。

アイヌ語でユクトパキナ(鹿・群れ・草)、冬にこの草を食べに鹿が群れをなして来る。又は、シカが群れている様にびっしりはえているという様子のことばです。

写真・文/西野(澄) 参考文献・おもしろ木の話



■今月の幹事会

出席者(11/8):大窪・萩田・檀棒・加藤・清澤・矢野・西野(澄)・松藤・平・早坂・老田

1. 2023年12月、2024年1月活動スケジュール(12月幹事会12/6(水)):了承
2. 2023年10月会計報告:了承
3. 2023年度森林・山林多面交付金事業10月報告:了承
4. 2023年度第5回親子森林教室報告および次年度に向けて:11/9親子森林教室事務局打合せ。
5. 活動時の宿泊・長距離移動の手当て支給基準について:了承
6. 現場報告
 - ・澄川整理伐状況:予定の約50%終了。E-8区は60%終了。
 - ・野幌道有林植樹:10/25防草シート13カ所に各5本植樹、11/11単独植え60本予定。
野幌国有林はクマ出没地に近いため活動を中止。次年度は春秋の2回植樹を検討。
 - ・第3回じょうてつの森づくり報告:了承
7. その他
 - ・森ボラ新ホームページ進捗報告:了承 [10月の訪問数:2,124回 訪問者数:492人]
 - ・台湾からのボランティア活動参加希望:1月8~10日対応可能、先方と確認。
 - ・冬季セミナー講演候補:水質調査、林道設置、自伐林業家など各担当が先方と交渉を進める。
 - ・軽トラック冬季保管場所:丸尾氏ガレージ。了承。

■活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
10月17日(火)	支笏湖(烏柵舞)	12	水正氏植樹指導、植樹(アカゾ 291本)、枯損調査
10月19日(木)	澄川	9	道民森づくり準備、澄南小記念植樹準備、ニセアカシア除
10月22日(日)	サッポロさとらんど	9	道民森づくりの集い
10月23日(月)	澄川	16	澄南小6年生卒業記念植樹支援、E-8整理伐、観察会
10月25日(水)	野幌道有林	9	3m角シート植樹(13カ所、65本)、防獣網設置
10月27日(金)	ラルズビルBF1	10	臨時幹事会(上期事業報告まとめ)
10月28日(土)	澄川	19	E-8整理伐、日本道路社員活動体験(マキ作り、整理伐)
10月30日(土) ~11月2日(木)	20周年記念研修旅行 (三重・和歌山県)	15	速水林業・北海道大学和歌山研究林研修
11月5日(日)	澄川	20	E-8整理伐、マキ整理、ハルニレ移植、コモドの森
11月7日(火)	アークス本社ビル7F会議室	8	第2回理事会
11月8日(水)	ラルズ生活研究センター2F	11	幹事会
11月9日(木)	澄川	12	E-8材出し、苗畑整備、チップー斎藤リンゴ園運搬
11月11日(土)	澄川	5	E-8材出し、北地区林道工事確認
	野幌道有林	11	植樹(広葉樹50本、アカゾ 10本)、ハトシキルター設置
11月14日(火)	澄川	14	E-8材出し、マキ作り、澄南小用ネームプレート研磨